

70 玉川村制施行 周年記念誌

ここに生きる、
ここから始まる、
新たな挑戦。

70th
Anniversary
玉川村制施行

あす
未来が輝く村づくり
“元気な”たまかわ



ごあいさつ



玉川村長
須釜 泰一

玉川村は、昭和30年3月31日に泉村と須釜村の2村合併により誕生し、今年、70周年を迎えることができました。現在の玉川村は、ひとえに先人の皆様の弛まぬ努力や玉川村への深い愛情と強い想いを持って地域の発展を願い日々尽力されてきた多くの村民の皆様のご苦勞の賜物であり、心より敬意と感謝を申し上げます。

玉川村は豊かな自然と優れた文化・歴史・伝統、そして人々の温かい心に支えられながら、農業を始めとする産業の発展、教育・福祉の充実、地域コミュニティの形成に取り組んでまいりました。特に近年では、子育て支援や高齢者福祉の充実に加え、社会的・構造的課題である人口減少対策に、自然減対策、社会減対策の両面から総合的に取り組んでおります。

現在、閉校した四辻分校を活用した「たまかわ観光交流施設森の駅 yodoge」や阿武隈川沿いの「複合型水辺施設乙な駅たまかわ」などの交流拠点の整備を始め、移住・定住の促進に向け、「すがまプラザ住宅エリア」の分譲など、多様な施策を推進しており、これらの施策を通じ、次世代を担う人材の育成や地域資源の有効活用、地域活性化を図ってまいります。

今後も「未来が輝く村づくり」元氣な「たまかわ」を目指し、住民の皆様と一緒に、豊かな自然と文化を活かし、生まれて良かった、住んで良かった、選んで良かったと認められる、より魅力ある活力ある村づくりに努めてまいりますので、引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年11月



こども園豆まき会



金毘羅桜(中)

南須釜の念仏踊り



世代をこえて



南須釜の念仏踊り(東福寺)

こども記者(森の駅 yodge)



親子料理教室



少年球技大会





やっちゃん小屋(山小屋)



認定こども園たまかわクックの森入园式



こども園豆まき会



旗持ち登校(川辺)

元気いっぱい



中学生みらい議会



さるなし収穫体験(四辻新田)

秋祭り(小高)



アーバンスポーツたまかわ



森の駅 yodge の夏祭り



春季検閲



クックちゃん文庫巡回(岩法寺)



お米さんありがとう(小高)

元気な姿



サイクルトレイン



高齢者学級

高齢者サロン(竜崎)

村長杯ゲートボール大会





元気なたまかわウォーキング(小高)



市町村対抗軟式野球対大会



森の駅yodgeの田植え



ふくしま駅伝

未来へつなぐ



森の駅yodge収穫祭

乙字ヶ滝鯉のぼりイベント(竜崎)



グラウンドゴルフ大会



皆で支え合う福祉の村づくり



令和3年度を初年度とする第6次玉川村振興計画「後期基本計画」では、「未来が輝く村づくり」元氣な「たまかわ」の実現に向け、「皆で支えあう福祉の村づくり」「環境にやさしい安全・便利な村づくり」「活力のある村づくり」「人を育む村づくり」「交流と協働の村づくり」の5つの柱を掲げ、総合的な施策を展開してきました。

1つ目の柱

である「皆で支えあう福祉の村づくり」では、すべての村民が健康で安心して暮らせる地域社会の実現を目指す、保健・



医療・福祉・子育てなど生活に密着した分野で、誰もが生涯を通じて安心して暮らせる仕組みづくりを進めてきました。近年はがんによる死亡が増加しており、特に働き盛り世代の健康維持が課題です。このため、特定健診やがん検診の受診機会拡大、追加健診や未受診者への勧奨を行い、早期発見・早期治療を推進しています。また、生活改善推進員と連携し、減塩を中心とした生活習慣病予防や健康教育に取り組む、健康寿命の延伸を図っています。健康づくり拠点「健康の駅たまかわ」では、運動教室や健康相談などを通じ

て、気軽に健康づくりに取り組める環境を整備しています。社会保障制度では、年金・医療・介護保険の適正運用により安心して医療・介護を受けられる体制を維持し、制度の持続性確保にも努めています。また、「元氣なたまかわ子育て支援プラン」に基づき、妊娠期から子育てまで切れ目のない支援を行い、認定こども園や保健センターと連携した総合的な子育て支援を推進しています。今後も、すべての世代が支えあい、安心して暮らせる温かな地域社会の実現を目指します。



主要事業

① 健康づくり推進事業 (健康の駅たまかわ運営)

健康増進の拠点「健康の駅たまかわ」を中心に、運動教室や健康講座、健康相談を実施。村民が主体的に健康づくりに取り組む環境を整え、健康寿命の延伸を図る。

② がん検診・特定健診推進事業

がんによる死亡増加への対応として、検診受診機会の拡大、未受診者への受診勧奨、追加健診の実施を推進。早期発見・早期治療による村民の健康保持を目指す。

③ 子育て支援充実事業 (元氣なたまかわ子育て支援プラン)

妊娠期から出産・育児までの切れ目のない支援体制を整備。認定こども園、保健センター、放課後児童クラブが連携し、安心して子どもを育てられる環境を提供。

④ 高齢者・障がい者支援事業

一人暮らし高齢者の見守り活動やボランティア養成、災害時の要援護者支援体制を整備。障がい者の相談支援や就労支援を充実させ、地域で自立して生活できる仕組みを構築。

⑤ 生活困窮者自立支援・福祉相談事業

生活困窮世帯や経済的に厳しい家庭に対し、早期相談対応を実施。関係機関との連携により、保護に至る前の段階から自立支援を行い、安心して暮らせる地域社会を目指す。

環境にやさしい安全・便利な村づくり



2つ目の柱として、自然と共生しながら快適で安心して暮らせる生活環境の実現を目指し、「環境にやさしい安全・便利な村づくり」を進めています。阿武隈川の清流と阿武隈山系の豊かな自然を次世代へ引き継ぐため、水質検査の継続や不法投棄防止の啓発、再生



可能エネルギーの導入などに取り組む、環境保全と循環型社会の形成を推進しています。また、地域の自然と人が共に生きる空間づくりとして「かわまちづくり」を進め、乙字ヶ滝周辺の景観整備や遊歩道整備を行い、四季折々の風景を楽しめる憩いの場として整備を進めています。中池公園などの公園・緑地の維持管理を地域団体と協力して行い、住民が集い触れ合う場づくりを通じて、環境と交流の両面から村の魅力向上を図っています。さらに、阿武隈川上流遊水地群整備事業の推進により、水害リスクの軽減と安全な暮らしの確保を目指し、国や県、関係機関と連携して

関と連携して防災・減災対策を強化しています。加えて、快適な住環境の確保に向けて「空き家・空き地バンク事業」や

「移住・定住促進補助制度」を展開し、空き家の有効活用と地域コミュニティの再生を図っています。水道管更新や排水施設の整備、住宅の長寿命化にも努め、誰もが安心して暮らせる生活環境の整備を進めています。今後も、自然環境の保全と利便性の向上を両立させ、持続可能で魅力ある村づくりを推進してまいります。



主要事業

① かわまちづくり事業
(乙字ヶ滝周辺整備)

阿武隈川沿いの自然環境を活かし、乙字ヶ滝や中池公園周辺の景観・遊歩道・休憩施設を整備。水辺のにぎわい創出と観光・交流拠点としての機能向上を図る。

② 空き家・空き地バンク事業

空き家情報の登録・紹介を通じて、移住希望者や地域住民へのマッチングを促進。空き家の有効活用を進め、地域コミュニティの維持と活性化を支援。

③ 移住・定住促進補助制度

若年世代や子育て世代の定住を支援するため、住宅取得・改修補助、引越費用補助などを実施。村外からの移住者受け入れを促進し、人口減少対策と地域活力の維持に寄与。

④ 上下水道・排水整備事業

安全で安定した水道水の供給確保のため、新水源開発や老朽管更新を計画的に実施。農業集落排水や合併処理浄化槽の整備を通じ、公共水域の水質保全と快適な生活環境を確保。

⑤ 再生可能エネルギー・環境保全推進事業

住宅用太陽光発電システム設置補助や公共施設への太陽光設備導入を推進。村民への環境啓発活動や不法投棄防止などを通じて、環境負荷の少ない循環型社会を目指す。

活力のある村づくり



3つ目の柱として、地域経済の活性化と生活基盤の充実を目指し、「活力のある村づくり」に、農林業・商業・工業・雇用・観光の各分野で、村の特性を活かした施策を展開してきました。

まず農林業の振興では、兼業農家が増える中、水稲や園芸作物、果樹、花卉、肉牛繁殖など多様な経営形態が展開されています。一方で高齢化や後継者不

足、風評被害などの課題に対して、認定農業者制度や集落営農組織の育成を進め、多面的機能発揮促進事業を活用した農村環境保全、農地集積や新技術導入による経営効率化を推進してきました。加えて、農畜産物のブランド化や6次産業化により、地域農業の持続的発展を図っています。林業分野では、ふくしま森林再生事業による間伐・下草刈り・松林保全などを実施し、森林の多面的機能の維持と放射性物質対策を両立させています。

商業では、店主の高齢化や人口減少による売上減少といった課題に対応するため、商工会と連携し、既存事業者支援や新規創業者育成を推進。移動販売やチャレンジショップ、キッチンカー活用などの取り組みにより、地域経済の活性化を図ってきました。

工業分野では、企業誘致の推進や既存企業の支援に努め、立地環境整備や支援制度の充実を進めました。さらに、雇用・勤労者対策として求人・求職のマッチングを支援するとともに、サテライトオフィス誘致やコワーキングスペース整備を通じて、村内就労と働きやすい環境づくりを両立しています。

観光振興では、乙字ヶ滝や東野の清流、大寺城跡公園などの自然景勝地、東福寺舍利石塔や南須釜の念仏踊りといった文化資源を活かし、環境整備や地域団体との連携を進めてきました。さらに、旧四辻分校を活用した「たまかわ観光交流施設森の駅yodoge（ヨッジ）」を拠点に、農業体験・自然



に、サテライトオフィス誘致やコワーキングスペース整備を通じて、村内就労と働きやすい環境づくりを両立しています。





体験・食体験などの着地型観光を展開。都市部からの来訪者と地域の交流を深めています。SNSやホームページを活用した情報発信、名産品開発、観光ルート設定などの取組を通じて、通過型から滞在型観光への転換を目指し、地域の賑わい創出を進めています。

これらの施策は、村民と行政が一体となり、地域資源を最大限に活かしながら取り組んできた成果です。今後、玉川村は、農林業の発展、商工業の振興、雇用の確保、観光資源の活用を通じて、持続可能で活力ある村づくりを推進していきます。



主 要 事 業

① 農業振興・6次産業化推進事業

認定農業者や営農組織を中心に、地域の特性を生かした高品質な農産物の生産やブランド化を推進。加工・販売・観光を組み合わせた6次産業化を進め、農業の収益向上と地域経済の自立を図る。

② 商工業・企業支援事業

商工会や事業者と連携し、既存店舗の活性化や新規創業者への支援を実施。村内外企業の誘致やサテライトオフィス整備を進め、働く場の確保と地域雇用の創出を目指す。

③ 観光拠点整備・着地型観光推進事業

旧四辻分校を活用した「たまかわ観光交流施設森の駅 yodge(ヨッジ)」を拠点に、農業体験や自然体験、地域の食を生かした滞在型観光を展開。村民と来訪者が交流できる体験プログラムの充実により、観光による交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。

④ 水辺環境活用・かわまちづくり推進事業

阿武隈川の豊かな自然を活かし、「玉川村複合型水辺施設乙な駅たまかわ」や中池公園などを拠点とした「かわまちづくり」を推進。地域団体や企業と連携したイベントやレジャー活動を通じて、村内外からの来訪促進と地域交流の拡大を進める。

⑤ 地域資源活用・文化振興事業

乙字ヶ滝や大寺城跡、南須釜の念仏踊りなど、歴史・文化資源の保存と活用を推進。地域行事や伝統芸能の継承を支援し、村民の誇りと絆を育むとともに、観光資源としての魅力向上を図る。

人を育む村づくり



4つ目の柱として「人を育む村づくり」では、子どもから高齢者まで、すべての世代が健やかに学び、成長できる環境の整備に取り組んできました。学校教育では、令和2年度の中学校統合後もこども園・小学校・中学校の連携を強化し、15年間を見通した一貫教育を推進し、教職員の資質向上やICT教育の活用、特別支援教育の充実を

図るほか、道徳教育や読書活動、自然体験を通じて豊かな心を育む教育を進めています。また、体力向上や食育・健康教育の推進により、望ましい生活習慣の定着にも努めています。青少年の健全育成では、地域・家庭・学校・関係団体が連携し、スポーツや文化活動を通して協調性や社会性を育む取組を展開。地域ボランティアの活用や支援体制の充実を図り、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めています。



生涯学習の分野では、公民館や文化体育館を拠点に多様な講座やサークル活動を支援し、図書室の充実などを通じて、誰もが学び、交流できる機会を提供。スポーツ振興では、施設整備やイベント開催、アーバンスポーツの導入により、世代を超えた交流の輪を広げています。さらに、文化活動や文化財の保存にも力を注ぎ、芸術鑑賞教室や無形文化財の記録保存を実施。台湾鹿谷郷や大阪府豊中市、沖縄県北中城村との交流を通じて国際感覚と広い視野を育んでいます。こうした多彩な取組により、玉川村は、誰もが学び、成長し、地域で輝く「人を育む村づくり」を着実に推進しています。



主要事業

① 学校教育充実事業

こども園・小学校・中学校の連携を強化し、15年間を見通した系統的教育を推進。ICT教育や特別支援教育、道徳教育、読書活動、自然体験などを通じ、学力と豊かな心の育成を図る。

② 青少年健全育成事業

地域・家庭・学校・関係団体が連携し、スポーツ大会や文化活動を通じて協調性・社会性を育む。ボランティアの活用や支援体制整備により、子どもたちを地域全体で支える環境を整備。

③ 生涯学習・スポーツ振興事業

公民館や文化体育館を拠点に、多様な教室・講座・イベント等を行い、村民が自由に学び交流できる環境を提供。施設整備やアーバンスポーツ導入により、世代を超えた交流の場を拡大。

④ 文化活動・文化財保護事業

文化団体活動支援、芸術鑑賞教室の実施、無形文化財の記録保存などを通じ、郷土の歴史・文化の理解と継承を推進。地域文化の発信と村民の誇りの醸成を図る。

⑤ 交流活動・国際理解促進事業

台湾鹿谷郷、大阪府豊中市、沖縄県北中城村との定期交流や文化・経済活動を実施。村民の国際感覚や広い視野の育成を支援し、地域の魅力向上と交流人口拡大に貢献。

交流と協働の村づくり



5つ目の柱として「交流と協働の村づくり」では、少子高齢化や人口減少が進む中で、地域交流や文化、地域活動の維持が難しくなる現状に対応してきました。個人の価値観や生活様式の変化により、地域活動への参加が減少し、連帯感や「結」の精神が薄れつつある中で、村民一人ひとりが地域の一



員として関わる意識を育て、地域コミュニティ活動への参加を促す取組を進めています。行政区への支援を継続しながら、集落単位での広域的な連携や新たな活動、企業・団体の参画を支援しています。また、村民懇談会の開催やアンケートの実施により、村民の意見を施策に反映し、協働による地域づくりを進めています。さらに、女性の視点を生かした「女性から見たまちづくり研究会」を設け、地域課題の検



討や提言を行うほか、研修会やフォーラムの開催、女性委員の登用などにより男女共同参画の推進にも力を入れています。行財政面では、限られた財源を有効に活用するため施策の優先順位を明確にし、事務事業の点検、公共施設の適正管理、人材育成を進め、広域行政との連携を強化しています。今後、村民が支え合い、安心して活力ある持続可能な村づくりを推進していきます。

主要事業

① 地域コミュニティ活動の支援

各行政区や地域団体への活動支援を継続し、地域の実情に応じた交流事業やイベントの開催、コミュニティの広域化を推進。新たな団体や企業の地域参画も支援。

② 村民懇談会の開催

村長や職員が隔年で各行政区を訪問し、村民の声を直接聴く「村民懇談会」を開催。村政への意見反映や行政と村民の信頼関係の強化を図る。

③ 「女性から見たまちづくり研究会」の運営

女性の視点を生かした地域づくりを推進。委員による課題提言や情報発信、地域活動への参加促進を実施。

④ 男女共同参画の推進事業

研修会・フォーラムの開催や女性委員の登用促進など、性別に関わらず活躍できる社会づくりを推進。仕事と家庭の両立支援や意識啓発にも取り組む。

⑤ 行財政運営の健全化と広域連携

事務事業の点検や公共施設の適正管理、村税収納率の向上を図るとともに、広域行政との連携を強化。効率的で持続可能な行政運営を推進。



1974年6月
村章制定

玉川村制70年のあゆみ

Tamakawa History



1973年8月 須釜小学校新校舎完成



1970年3月 玉川第一小学校新校舎完成



1965年3月 役場新庁舎完成
(広報たまかわ第1号にて紹介)



1975年9月 就業改善センター完成



1973年3月 国道118号全線改良工事完了



昭和	30	33	34	38	40	41	43	45	46	47	48	49	50
西暦	1955	1958	1959	1963	1965	1966	1968	1970	1971	1972	1973	1974	1975
旧泉村、旧須釜村が合併し玉川村が誕生する(3月31日)	泉中学校屋体完成(3月)	須釜中学校屋体完成(3月)	水郡線川辺沖駅建設(6月)	母子健康センター開所(4月)	役場新庁舎完成(3月)	国道118号竜崎バイパス完成(3月)	有線放送施設電話開通(2月)	乙字大橋開通(12月)	玉川第一小学校新校舎完成(3月)	泉保育所開所(5月)	稚蚕共同飼育所完成(4月)	国道118号川辺バイパス開通(3月)	奥の細道自然歩道完成(9月)
												須釜小学校新校舎完成(49年1月移転)	国道118号全線改良工事完了(3月)
												川の目橋完成(3月)	村章制定(6月)
												千五沢ダム完成(3月)	村民体育館完成(3月)
												玉川局開局電話自動化(8月)	
歴代村長	大木一夫 昭30.4〜34.4	矢部重壽 昭34.4〜38.4	丹内榮一 昭38.4〜42.4	大越力夫 昭42.4〜46.4	小針千代之助 昭46.4〜62.4								

1955-1988年

昭和



1988年3月
県営玉川工業団地完成



1988年9月 福島空港建設起工式



1988年9月
中華民国鹿谷郷と友好都市提携調印



1984年7月
空港予定地視察のため細田運輸大臣来村



1983年7月
小半弓遺跡発掘(たたら跡)



1975年3月
千五沢ダム完成



1977年3月
川辺小学校新校舎完成

	63	62	61	60	59		58	55		52	51
	1988	1987	1986	1985	1984		1983	1980		1977	1976
福島空港建設起工式(9月)											
東京玉川会設立総会(5月)											
中華民国鹿谷郷と友好都市提携調印(5月)											
県営玉川工業団地完成(3月)											
福島空港用地、県と地権者補償協定書調印(3月)											
玉川村老人クラブ連合会内閣総理大臣賞受賞(花いっぱい運動)											
商工会青年部主催第1回納涼花火大会開催(8月)											
防災無線(農村情報連絡施設設置事業)完了(2月)											
村民憲章・村のシンボル、山桜・赤松・山鳩を制定(10月)											
水郡線開通50周年(12月)											
空港予定地視察のため細田運輸大臣来村(7月)											
村民運動場完成(9月)											
勤労者体育センター完成(8月)											
小半弓遺跡発掘(たたら跡)(7月)											
広報「たまかわ」20号発刊(4月)											
須釜支所庁舎完成移転(6月)											
須釜公民館完成(12月)											
すがま幼稚園開園(須釜小学校内)(4月)											
川辺小学校新校舎完成(3月)											
泉保育所新築完成(12月)											
いずみ幼稚園開園(玉川第一小学校内)(4月)											
就業改善センター完成(9月)											

1979…第二次オイルショック

車田次夫

昭62.4～平19.4



1999年9月
第1回福島空港玉川健康マラソン大会実施



1993年3月 福島空港開港



1991年11月 ふくしま駅伝に初参加



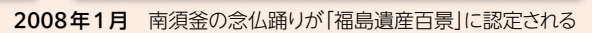
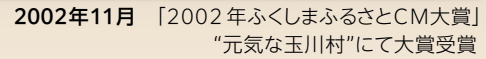
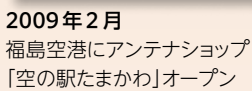
1996年5月 玉川村生産物直売所「こぶしの里センター」オープン



2001年3月 阿武隈高原道路「玉川IC-矢吹IC」開通

平成	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
西暦	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
歴代村長 車田次夫 昭62.4〜平19.4	玉川村保健センター完成(4月) 消費税3%導入、ベルリンの壁崩壊 第1回ふるさと創生事業中学生国内研修(北海道)実施(8月) 泉中学校新校舎完成(4月) 玉川村婦人消防隊・交通安全母の会設立(10月) 玉川村のイメージキャラクター「山鳩のクックちゃん」誕生(10月) ふくしま駅伝に初参加 総合64位(11月) 須釜中学校新校舎完成(4月) 福島空港開港(3月) 玉川村のキャッチフレーズ決定「空と緑 新呼吸するたまかわ」(3月) 須賀川消防署玉川派出所開所(北須釜)(4月) 石川警察署玉川駐在所開所(4月) 村内農協JAあぶくま石川として広域合併発足(3月) 玉川村ふれあいセンター完成(3月) 1995…阪神・淡路大震災 玉川村生産物直売所「こぶしの里センター」オープン(5月) 玉川村シルバー人材センター発足(6月) 1997…消費税率を5%に引き上げ 東野の清流が「ふくしまの音30景」に認定(12月) 屋内ゲートボール場「すばく玉川」がオープン(5月) 場外舟券売場「ボートピア玉川」オープン(10月) 村特産品「さるなしドリンク」発売開始(12月) 福島空港「福島ー上海」「福島ーソウル」国際定期路線開設(6月) 第1回福島空港玉川健康マラソン大会実施(9月)										

平成



石森春男
平19.4
合5.4

1989-2018年

平成



2016年3月 屋根付き広場「クックドームたまかわ」完成



2011年3月 東日本大震災で震度6弱を観測



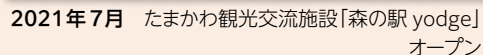
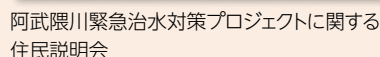
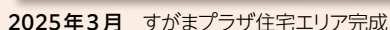
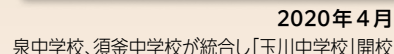
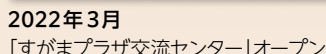
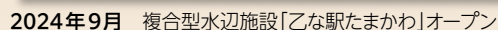
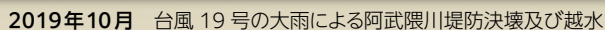
2016年4月 認定こども園「たまかわクックの森」開園



2012年10月
福島空港に屋内遊び場
「わくわくらんどたまかわ」オープン

平成	23	24	26	27	28	29	30
西暦	2011	2012	2014	2015	2016	2017	2018
東日本大震災で震度6弱を観測(3月)	あぶくま高原道路全線開通(3月)	2011..東日本大震災・福島第一原発事故	福島空港利用1000万人達成(2月)	福島空港内に屋内遊び場「わくわくらんどたまかわ」オープン(10月)	「健康の駅たまかわ」開所(8月)	川辺小学校閉校(3月)	たまかわっ子誕生祝金スタート(4月)
台風15号による戦後最大級の豪雨災害、阿武隈川堤防決壊(9月)	2012..アナログテレビ放送が終了し地上デジタル放送へ完全移行	2014..消費税8%増税	屋根付き広場「クックドームたまかわ」完成(3月)	認定こども園「たまかわクックの森」開園(4月)	須賀川消防署玉川派出所が石川消防署玉川分署に昇格(4月)	玉川大学と連携・協力に関する基本協定を締結(1月)	第1回さるなし・こくわサミットin玉川村開催(7月)
						福島県立石川支援学校たまかわ校開校(8月)	さるなしウォーク2017開催(10月)
						玉川村観光物産協会設立(12月)	福島県中央家畜保健衛生所開所(2月)
						「玉川村農産物加工施設」開所(4月)	第2回全国さるなし・こくわサミットin玉川村開催(9月)
						新中学校名「玉川中学校」に決定(12月)	
歴代村長	石森春男 平19.4~平25.4						

令和

17



七代村長
石森春男氏



六代村長
車田次夫氏



五代村長
小針千代之助氏



四代村長
大越力夫氏



三代村長
丹内榮一氏



二代村長
矢部重壽氏



初代村長
大木一夫氏

歴代村長

代位	氏 名	就 任	離 任
初	大 木 一 夫	S 30. 4.30	S 34. 4.29
2	矢 部 重 壽	S 34. 4.30	S 38. 4.29
3	丹 内 榮 一	S 38. 4.30	S 42. 4.29
4	大 越 力 夫	S 42. 4.30	S 46. 4.29
5	小 針 千 代 之 助	S 46. 4.30	S 50. 4.29
		S 50. 4.30	S 54. 4.29
		S 54. 4.30	S 58. 4.29
		S 58. 4.30	S 62. 4.29
6	車 田 次 夫	S 62. 4.30	H 3. 4.29
		H 3. 4.30	H 7. 4.29
		H 7. 4.30	H 11. 4.29
		H 11. 4.30	H 15. 4.29
		H 15. 4.30	H 19. 4.29
7	石 森 春 男	H 19. 4.30	H 23. 4.29
		H 23. 4.30	H 27. 4.29
		H 27. 4.30	H 31. 4.29
		H 31. 4.30	R 5. 4.29
8	須 釜 泰 一	R 5. 4.30	現在

歴代助役

代位	氏 名	就 任	離 任
初	小 林 彦右衛門	S 30. 8.22	S 34. 8.21
2	榊 枝 安 義	S 34.10. 1	S 38. 9.30
3	大 越 力 夫	S 39. 2.21	S 42. 4. 1
4	矢 吹 幸 夫	S 42. 9. 8	S 46. 9. 7
5	草 野 勇 藏	S 46. 9.22	S 50. 9.21
		S 50. 9.22	S 54. 9.21
6	塩 澤 直 利	S 54.12.22	S 58.12.21
		S 58.12.22	S 60. 7.31
7	圓 谷 信 男	S 61. 1. 1	S 62. 4.28
		S 62. 7.20	H 3. 7.19
		H 3. 7.30	H 7. 7.19
8	小 針 康 敬	H 7.10. 1	H 11. 9.30
9	角 田 文 弥	H 13. 3. 1	H 17. 2.28
10	小 原 嗣 男	H 17.11. 1	H 19. 3.31

歴代副村長

代位	氏 名	就 任	離 任
初	小 原 嗣 男	H 19. 4. 1	H 19. 4.29
2	草 野 亀 雄	H 19.10. 1	H 23. 9.30
		H 23.10. 1	H 27. 9.30
3	工 藤 宇 裕	H 27.10. 1	H 30. 3.31
4	川 俣 基	H 30. 4. 1	R 2. 3.31
5	須 釜 泰 一	R 2. 4. 1	R 5. 3. 9
6	丹 内 一 彦	R 5. 7. 1	現在

歴代収入役

代位	氏 名	就 任	離 任
初	大 竹 保 重	S 30. 9.12	S 34. 9.11
		S 34.10. 1	S 38. 9.30
		S 38.11. 1	S 42.10.31
		S 42.11. 1	S 46.10.31
2	近 内 壽 雄	S 46.11. 1	S 50.10.31
3	草 野 豊	S 51. 3.10	S 55. 3. 9
		S 55. 3.10	S 57. 1.31
4	山 崎 甲 子 郎	S 57. 4. 1	S 61. 3.31
5	大 和 田 重 徳	S 63. 1. 1	H 4.12.31
6	佐 久 間 倉 太	H 4. 8. 1	H 8. 7.31
7	宗 形 友 三	H 9. 7. 1	H 13. 6.30
8	小 原 嗣 男	H 13.11. 1	H 17.10.31

歴代教育長

代位	氏 名	就 任	離 任
初	車 田 芳 雄	S 31.10. 1	S 31.11.30
2	佐 久 間 孫 七	S 31.12. 1	S 35.11.30
		S 35.12. 1	S 39. 9.30
3	小 針 千 代 之 助	S 39.10. 1	S 43. 9.30
4	矢 吹 政 治 郎	S 43.11.19	S 47.11.18
		S 47.11.19	S 51.11.18
		S 51.11.19	S 55.11.18
5	関 根 忠 幸	S 55.11.19	S 59.11.18
		S 59.11.19	S 63.11.18
		S 63.11.19	H 4.11.18
6	小 林 豊 司	H 4.11.19	H 8.11.18
		H 8.11.19	H 12.11.18
7	車 田 政 美	H 12.11.19	H 16.11.18
		H 16.11.19	H 20.11.18
8	富 岡 ケ イ 子	H 21. 4. 1	H 25. 3.31
		H 25. 4. 1	H 29. 3.31
9	鈴 木 文 雄	H 29. 4. 1	R 2. 3.31
		R 2. 4. 1	R 5. 3.31
10	岡 崎 寛 人	R 5. 4. 1	現在

歴代議長

代位	氏 名	就 任	離 任
初	湯 澤 光 市	S 30. 4. 3	S 31. 3.30
2	丹 内 榮 一	S 31. 4. 9	S 34. 4.21
3	矢 吹 忠 次	S 34. 5.25	S 35. 3.30
4	尾 形 量 致	S 35. 4. 5	S 39. 3.30
5	小 林 肇	S 39. 4. 2	S 40.12.25
6	小 原 忠 治	S 40.12.26	S 43. 3.30
7	小 針 保 三	S 43. 4. 6	S 47. 3.30
		S 47. 4. 4	S 50.12.26
8	渡 邊 政 一	S 51. 1.16	S 51. 3.30
9	佐 久 間 倉 太	S 51. 4. 5	S 55. 3.30
		S 55. 4. 4	S 59. 3.30
		S 59. 4. 4	S 63. 3.30
		S 63. 4. 5	H 4. 3.30
10	塩 田 征 二 郎	H 4. 4. 3	H 8. 3.30
11	高 林 浅 男	H 8. 4. 4	H 12. 3.30
12	西 川 良 英	H 12. 4. 4	H 16. 3.30
13	須 田 福 廣	H 16. 4. 5	H 19. 3. 9
14	矢 部 玄 信	H 19. 3. 9	H 20. 3.30
15		H 20. 4. 2	H 24. 3.30
16	須 藤 利 夫	H 24. 4. 4	H 28. 3.30
17		H 28. 4. 4	R 2. 3.30
18		R 2. 4. 2	R 6. 3.30
19	小 針 竹 千 代	R 6. 4. 4	現在

歴代副議長

代位	氏 名	就 任	離 任
初	矢 吹 忠 次	S 30. 4.30	S 31. 3.30
		S 31. 4. 9	S 34. 5.18
2	佐 久 間 倉 雄	S 34. 5.25	S 35. 3.30
3	大 越 力 夫	S 35. 4. 5	S 39. 2.12
4	小 原 忠 治	S 39. 2.13	S 39. 3.30
		S 39. 4. 2	S 40.12.25
5	矢 部 勇 太 郎	S 40.12.26	S 43. 3.30
6	草 野 勇 藏	S 43. 3.31	S 46. 9.22
7	大 野 傳 吉	S 46. 9.23	S 47. 3.30
8	渡 邊 政 一	S 47. 4. 4	S 51. 1.15
9	鈴 木 吉 之	S 51. 1.16	S 51. 3.30
10	佐 久 間 安 藏	S 51. 4. 5	S 55. 3.30
11	森 忠 寛	S 55. 4. 4	S 59. 3.30
12	佐 久 間 安 藏	S 59. 4. 4	S 63. 3.30
13	塩 澤 金 吾	S 63. 4. 5	H 4. 3.30
14	高 林 浅 男	H 4. 4. 3	H 8. 3.30
15	宗 形 德 次	H 8. 4. 4	H 12. 3.30
16	関 根 正	H 12. 4. 4	H 16. 3.30
17	三 瓶 力	H 16. 4. 5	H 20. 3.30
18	森 清 重	H 20. 4. 2	H 24. 3.30
19		H 24. 4. 4	H 28. 3.30
20	大 和 田 宏	H 28. 4. 4	R 2. 3.30
21	塩 澤 重 男	R 2. 4. 2	R 6. 3.30
22	石 井 清 勝	R 6. 4. 4	現在

玉川村

【辞典】

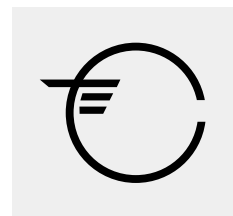
【玉川村の由来】

1955年。旧泉村、旧須釜村が合併し玉川村が誕生。村の名前の由来は、当時の須釜村の村長が新しい村の名前に須釜村の沢の水を水源として、泉村の中央を流れている玉川の名前にちなみ「玉川村」と、旧村名の頭文字をとった「須泉村」の2つを提案。その提案を受け泉村は、相馬の妙見神社がかつて、泉の庄玉川の辺りに鎮座していたという古事もあるということで「玉川村」案を後押し。須釜村も「泉が須釜村と合わさって玉川になる」という象徴的な意味も込められているとして「玉川村」に決まりました。（合併記録より）

※「玉川」は昭和41年に一級河川「泉郷川」と指定され、その名を現在にはとどめていません。

※妙見神社・両村境の玉川沿いの小高い森に鎮座する社である。

【村章】「昭和49年制定」



玉川村の頭文字「た」を図案化したもので、村民の和と協力によって明るく豊かな村づくりに着実に進む玉川村を象徴している。この村章は一般公募によって選ばれたもので、作者は「た」の一画目を、未来へ向かって躍進する玉川村を表す「翼」としてデザインしています。

役場敷地内に立つ合併記念碑



玉川村の生い立ちと裏には
功労者の名が刻まれています。

合併記念碑銘文

第二次世界大戦が終結の後、町村行政の複雑化と財政貧困のため、これが打開策を講じなければならない状態となったので、政府は之に応じて、昭和二十八年九月一日町村合併促進法の制定に依り改革に踏み切ったのであります。

ここに於いて各町村とも隣接町村との間に幾度かの話合いが行われ交通の便、或いは立地条件等のために離合集散難行を極めたが、遂に泉・須釜両村の歩み寄りをみて昭和三十年二月五日第一回合同会議を須釜小学校に開催するに至りました。

この席上両村合併促進審議会を結成、改めて両村の合併を決議、村名を玉川村と命名することを満場一致で決定しました。その後両村議会に於いて正式議決、同年二月十八日合併計画書を県に提出、同年三月三十一日付を以て、ここに待望の玉川村は目出度く誕生したのであります。

顧みれば合併促進法施行以来、隣接町村との折衝から合併実現に至るまで長期間にわたる村民各位の御協力に対して深甚なる謝意を表しますと共に、当時役員として苦心、その衝に当られた方々の労苦は多大なるものがあり、ここに功労者名を列記して長しいにその功績を讃えるものがあります。玉川村発足当時の総人口は、九、〇四二人、役場職員二八名、予算規模二八、一四八、八九三円の純農村であったことを付記するものであります。「付して曰く、和を以て貴となす」と。

昭和四十二年三月三十一日

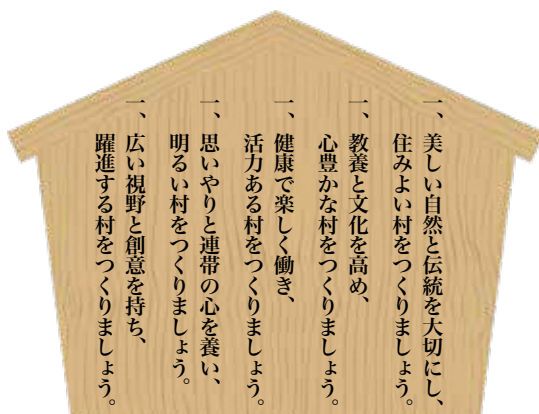
玉川村初代村長 大木 一夫 撰文

佐久間 榮 敬書

【村民憲章】

〔昭和60年11月制定〕

玉川村の住民として誇りと責任を持ち、美しい自然と伝統ある郷土を愛し、さらに活力に満ちた魅力ある村づくりを進めるため、この憲章を制定し実施します。



村民憲章は、村の30周年を記念して制定されました。村民や学識経験者で構成する「村民憲章制定委員会」によって素案作りが進められ、1985年11月に広報たまかわや村文化祭の「村民カラオケ大会」の会場で発表されました。

【玉川村のシンボル】

村民憲章の制定にあわせて定められた、玉川村のシンボル。

いずれも村内全域に繁殖並びに生息し、親しまれている自然や生き物であり、赤松は〈豊かさ〉、山桜は〈明るさ〉、山鳩は〈活力〉の象徴とされている。



村の鳥：山鳩

鳩に三枝の礼あり、平和を重んじ未来に羽ばたく。わが村の躍進発展を象徴する。



村の木：赤松

古来から尊ばれ、長寿、節操を重んじる木といわれ、わが村の繁栄を象徴する。木言葉：「不老長寿」「慈悲」など



村の花：山桜

花王といわれるさくらは、わが村の明るく豊かな村づくりを象徴する。花言葉：「あなたに微笑む」「高尚」「美麗」など

【70周年記念ロゴ】



玉川村の村制施行70周年を、皆さんと一緒に祝い、喜び、その想いを発信するため記念ロゴマークを作成しました。

70周年記念ロゴマークは、村のこれまで歩んできた「歴史」とこれから力強く歩み続ける「未来」への想いを込めてデザインしました。数字の「70」は、70年という節目を示し、「0」の部分に村章を組み込むことで、玉川村の誇りや伝統、地域の一体感を象徴しています。

また、村章をロゴの一部として用いることで、これまで支えてきた村民の皆様への感謝と、郷土愛を込めており、70周年という大きな節目を迎えた玉川村が、これまでの歩みを大切にしながら、未来へと力強く進んでいく想いを示しています。

【山鳩のクックちゃん】

名	前…山鳩のクックちゃん
性別	男の子
生年月日	平成3年(1991年)10月17日
性格	格…恥ずかしがり屋だけど、チャレンジ精神旺盛
目標	玉川村を広くアピールして、有名にすること 鳥なのでいつの日か大空を舞いたい！
身分	玉川村の名誉職員として 平成3年(1991年)11月1日付けで辞令交付

平成4年1月号に初登場した山鳩のクックちゃんは、福島空港を中心にした村づくりを進めるに当たり、村の象徴とし誕生しました。東京玉川会の会員で小高出身の原敏子さんと漫画家のイシグロカオル先生が作成しました。デザインにあたり、村の風土や歴史、文化を丁寧に調べ、その中から村の鳥・山鳩をモチーフに採用。誕生から今年で34年、玉川村の歴史の半分を共に歩んできました。





玉川村役場

〒963-6392 福島県石川郡玉川村大字小高字中畷9番地

TEL 0247-57-3101 FAX 0247-57-3952

<https://www.vill.tamakawa.fukushima.jp>

2025年11月発行